

# 報告 REPORT

## 地域医療に関わる地域別意見交換会 旭川市医師会

常任理事・地域医療部長 ささもと 笹本 よういち 洋一

本意見交換会は、当会から松家会長ほか役員が地域に出向き、地元医師会役員・会員から地域医療の現状を直接伺うため、平成20年度から開催している。近年は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見合わせていたが、今年度は3年ぶりに、通算29回目を旭川市で開催したので主な内容を紹介する。

◇

令和4年11月18日（金）18時30分よりアートホテル旭川で開催した。出席者は旭川市医師会より滝山会長ほか11名、北海道保健福祉部より京谷部長ほか3名、旭川市より向井地域保健担当部長ほか1名、当会より松家会長ほか7名であった。

初めに当会から「医師の働き方改革」、「新型コロナウイルス感染症」、「北海道在宅医療推進支援センター事業」、「メディカルウイング」についてそれぞれ説明を行った。

続いて地域医療の現状と課題について、旭川市医師会より「たいせつ安心 i 医療ネット」について下記のとおり説明をいただき、意見交換を行った。

◇

『たいせつ安心 i 医療ネット』について  
成り立ち

2008年に旭川赤十字病院が「旭川クロスネット」を立ち上げ、地域の医療機関に診療情報の提供を開始した後、2014年に旭川市医師会が事業主体となり、「たいせつ安心 i 医療ネット」の運用を開始した。（旭川クロスネットは運用を停止し、本ネットワークに移行）

### 概要

道北エリア（人口約59万人）を対象に、医療連携・診療情報の共有を目的としたネットワークであり、情報開示施設は、市内5つの基幹病院（旭川医大病院、旭川赤十字病院、旭川厚生病院、市立旭川病院、旭川医療センター）と深川市立病院および留萌市立病院である。5基幹病院は診療情報＋画像情報を開示し、市外の2病院は画像情報のみを開示している。

情報閲覧施設は、154施設（医科・歯科・調剤薬局・訪問看護ステーションおよび一部の老健施設）となり、登録患者数は、本年8月31日現在65,724人である。

### 経費

会費は、正会員（施設の開設者もしくは管理者）は入会金5,000円と年会費5,000円、準会員（正会員の施設に勤務する職員）は会費無料である。

ポータルサイト利用料は、各情報開示施設が毎月約10万円を負担し、ネットワークの運営は、旭川赤十字病院に年50万円で委託している。

### 特徴

- 旭川赤十字病院が脳卒中および大腿骨近位端骨折の地域連携パスを本ネットワーク上で運用している。
- 基幹病院から回復期病院に転院の際、地域連携室やMSWが情報を確認でき、さらに調剤薬局・訪問看護ステーション・歯科医療機関との情報の共有が可能となる。
- 1患者1カルテとしての参照が可能であり、時系列で複数病院の情報を表示できる。

### 課題・問題点

登録患者を増やしたいが、5つの情報開示施設が提供する情報に違いがあるなど、本ネットワークへの取組みに温度差がある。

二次・三次医療圏での参加施設を増やしたい。

現在の情報閲覧施設は医科・歯科・調剤薬局・訪問看護ステーションだけだが、今後、介護施設との連携をどうするか検討が必要である。

◇

意見交換の主な内容は下記のとおりである。

### 医療ネットワークシステムについて

○道医：名寄市にも医療情報ネットワークシステムがあるが、介護施設は経済的に余裕がないため、費用がかかると普及が進まない。

○道医：旭川市と名寄市のネットワークが連携できれば、道北全体がまとまるので良いと思う。

○旭川市医師会：各医療機関の先生がカルテや検査内容を確認しているため、セキュリティの問題もあり、全面的に介護施設に開示することは難しい。

### オンライン資格確認システムについて

○旭川市医師会：マイナンバーカードによる顔認証システムが原則義務化される。現在は保険情報だけではなく処方情報が閲覧できる。システムには処方情報の横に画像情報・検査情報の項目があるが、現在は閲覧できない。今後、情報が閲覧できるようになると地域医療ネットワークとのすみ分けがわからなくなる。オンライン資格確認システムはどこまで情報が閲覧できるのか。

○道医：オンライン資格確認システムを通じて全国どこでも内服薬情報等を共有して閲覧できるようにしたいというのが国の方針である。電子カルテの個

人情報すべてがこのオンラインシステムで閲覧できるようになるのは、かなりハードルが高いと思う。

#### 在宅医療について

○旭川市医師会：在宅医療における多職種間での患者情報の共有に関しては、バイタルリンクは利用者側の費用負担はない。

○道医：在宅での看取りについては、最終的には患者家族との話し合いとなり、最期は入院を希望するご家族もいる。また、亡くなった時すぐに医師に来てほしいという家族も多い。

○道医：旭川市はもっと在宅医療の需要があると思う。札幌市のように大都市であれば、在宅医療専門のクリニックが多いが、旭川市のような中規模な都市では訪問診療のみ特化することは難しい状況にあるため在宅医師が少ない。

○旭川市医師会：旭川市は開業医が多いと思われているが、東北・北海道の中核市の中で旭川市は決して開業医が多い地域ではない。苦勞が絶えない状況である。

○旭川市医師会：旭川市医師会はA会員の平均年齢が63歳で高齢化が進んでおり、これから新たに在宅医療を行ってもらうことは難しい。今後、旭川市で新規開業する先生には在宅医療も勧めたい。

◇

最後に、北海道保健福祉部・京谷部長、旭川市医師会・滝山会長、当会・松家会長よりそれぞれ総括をいただいた。

お忙しい中、ご出席いただいた旭川市医師会役員・会員、北海道庁・旭川市の方々に感謝申し上げ報告とする。



【会場の様子】

## 新型コロナウイルス感染症関連情報

新型コロナウイルス感染症に関する日本医師会からの通知等は、北海道医師会ホームページ「医師の皆様へー感染症情報」に掲載しています。

URL : <http://www.hokkaido.med.or.jp/doctor/infection.html>